

定期巡回・随時対応型 訪問介護看護サービス

社会福祉法人アパティア福祉会
定期巡回随時対応サービスほまれ

定期巡回・随時対応型訪問介護看護について

いつまでも住み慣れたところで暮らし続けたい。
いつでも安心な生活を送りたい。

そんな願いに寄り添います。

24時間365日の訪問介護看護サービスの実施です。

* 主なサービス

定期的にホームヘルパーが自宅を訪問

困った時に随時訪問

連絡できるように専用の通報装置を用意

必要に応じて定期的に看護師も訪問

具体的サービス

* 訪問介護

- * 安否確認
- * おむつ交換 体位交換
- * 清拭
- * 更衣介助
- * 移乗介助
- * 食事介助
- * 服薬確認
- * 水分補給
- * 口腔ケアなど

* 訪問看護

- * 褥瘡の手当て
- * たん吸引
- * 経管栄養の管理
- * インシュリン投与
- * 尿道カテーテルの処置など

今までの訪問介護や訪問看護との違い

訪問 1 回につきいくら、
という計算ではなく、
ひと月の定額負担の
サービスです。

訪問介護と訪問看護が
別々ではなく、介護と看護
両方の定額負担です。



利用料

	訪問介護のみ	訪問看護を行う場合
要介護1	6,707単位	9,323単位
要介護2	11,182単位	13,999単位
要介護3	17,900単位	20,838単位
要介護4	22,375単位	25,454単位
要介護5	26,850単位	30,623単位

通所介護等利用時の減算(1日につき)

要介護1	-146単位	-202単位
要介護2	-243単位	-304単位
要介護3	-389単位	-452単位
要介護4	-486単位	-553単位
要介護5	-583単位	-665単位

現 在

ご利用者数

4 月	4 名
5 月	5 名
6 月	6 名
7 月	7 名
8 月	8 名
9 月	1 0 名



まだまだ牛の歩みのようですが、
少しずつ増えてきています。

要介護度別

要介護 1	1 名
要介護 2	1 名
要介護 3	3 名
要介護 4	4 名
要介護 5	1 名

利用人数（平成26年9月）

要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
1人	1人	3人	4人	1人	10人

利用状況

1人1ヶ月あたりの平均利用回数（集合住宅型）

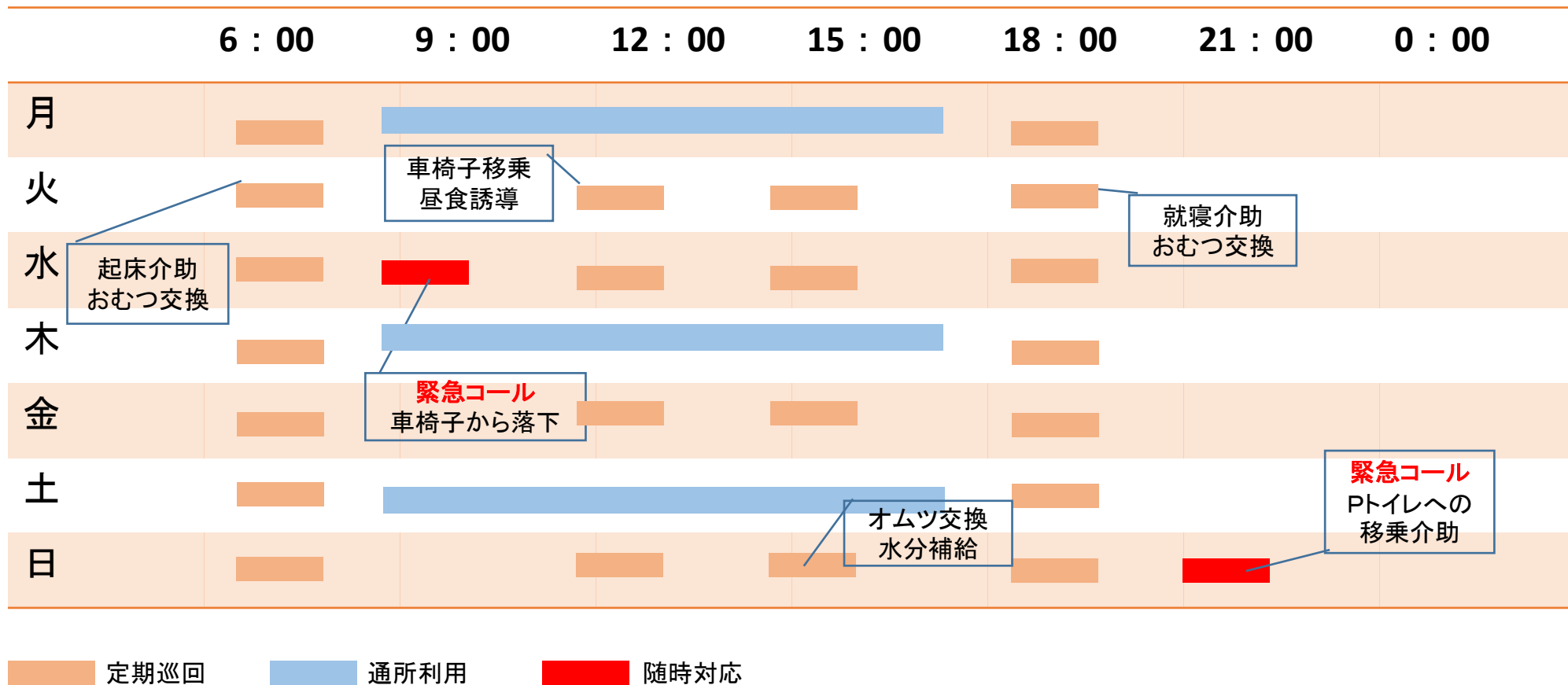
	定期巡回	随時訪問	随時対応
早朝	30回		2回
日中	22.5回	13.5回	4回
夜間	30回		1回

*利用状況について…

- ・ 生活を支えるという意味からは、毎日朝昼夕に定期巡回があります。
- ・ 昼はデイサービスなどへ行くこともあるので、予定がないこともあります。
- ・ 随時訪問では、定期巡回では予定していないが早朝の様子から変化がないかや、日中一人で過ごしている人の場合などに、訪問して様子を伺っています。
- ・ 随時対応とは、緊急コールがあった場合の訪問回数です。
早朝の定期巡回の後、転倒されたり排泄に失敗してしまったりといった場合に緊急コールがあり、随時対応で訪問しています。
- ・ 緊急コールを押されても、内容によっては話だけですむこともあり、ご利用者に安心していただけるよう努めています。

ご利用者例 Aさん（集合住宅）（訪問介護）

要介護5（男性） 車椅子使用



*Aさん 男性 93歳 要介護5

*妻とサービス付き高齢者向け住宅で生活

*おむつ使用 短時間のつかまり立ちは可能、介助にて車椅子へ移乗

*食事は一部介助

*入浴、着替えは全介助

*H26年4月より、

「妻と一緒に生活が続けられるようにして欲しい。」

「だが妻も高齢で介護の負担がかかりすぎないようにして欲しい。」

と希望され、定期巡回随時対応サービスほまれの利用開始

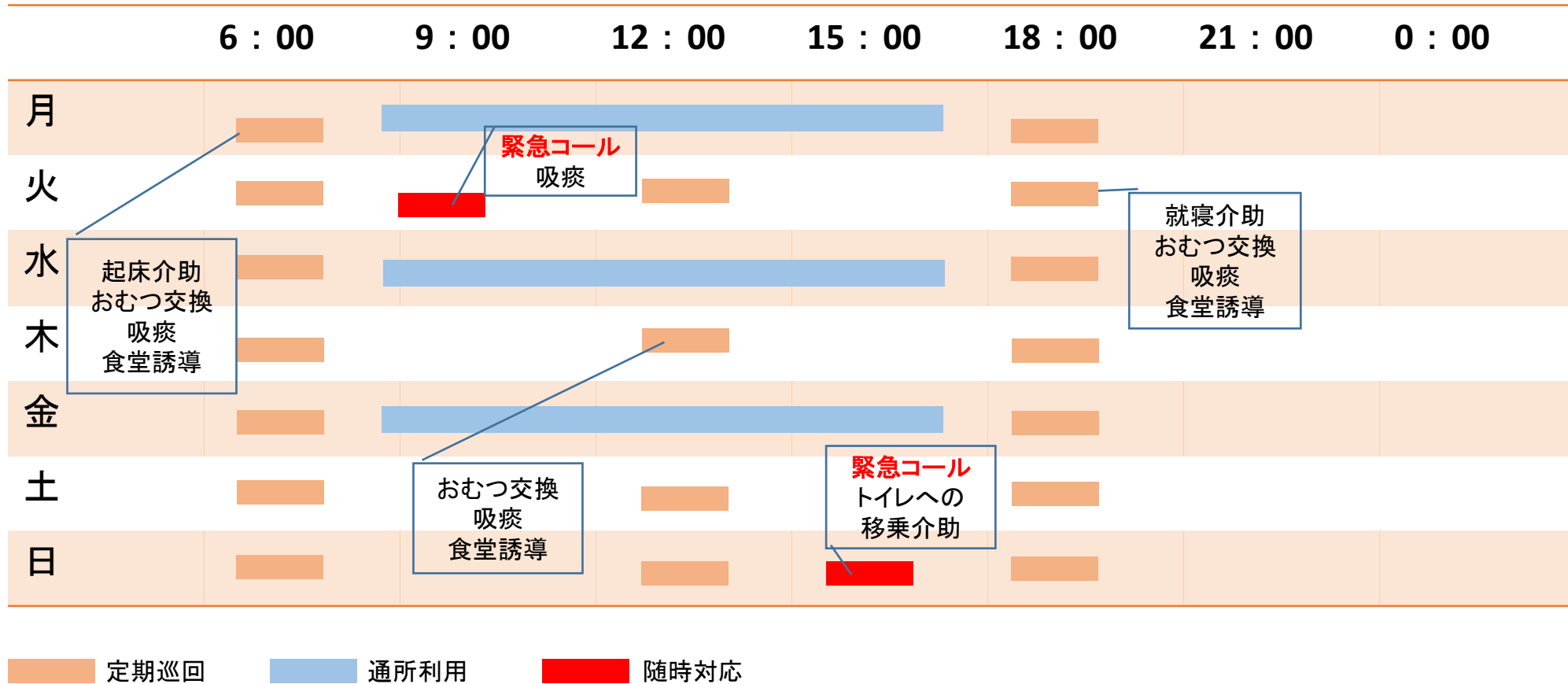
<援助内容>

*定期巡回にて起床介助（おむつ交換、清拭、更衣、身体整容、車椅子へ移乗、D.Sへ送り出し等）や、臥床介助（おむつ交換、清拭、更衣、身体整容、ベッドへ移乗等）、掃除や洗濯など行っている

*随時対応では、車椅子やポータブルトイレへの移乗に失敗した時に、緊急コールがあり介助している

ご利用者例 Bさん（集合住宅）（訪問介護看護）

要介護4（男性） 車椅子使用



*Bさん 男性 84歳 要介護4

*独居でサービス付き高齢者向け住宅で生活

*肺炎、心不全などで何度か入院されていた

*食事は全粥、きざみ、とろみ（食前後に吸痰の介助が必要）

*入浴、着替えは全介助 移乗は一部介助

*肺炎により入院し、8月に退院するとともに在宅生活を望まれたが、肺炎の再発リスクが高く、全般的な援助と吸痰および服薬の管理が必要で、定期巡回随時対応サービスほまれ訪問介護看護の利用開始

<援助内容>

*定期巡回（介護）にて起床介助（おむつ交換、清拭、更衣、身体整容、車椅子へ移乗、D.Sへ送り出し等）や、臥床介助（おむつ交換、清拭、更衣、身体整容、ベッドへ移乗等）、掃除や洗濯など行っている

*定期巡回（看護）にて食前後と就寝前の吸痰、食事の見守り、服薬介助を行っている

*随時対応では、吸痰やポータブルトイレへの移乗時に緊急コールがあり介助している

ご利用者例 Cさん（在宅）（訪問介護）

要介護3（男性） 寝たきり、左肺がん、重症筋無力症

	6 : 00	9 : 00	12 : 00	15 : 00	18 : 00	21 : 00	0 : 00
月							
火							
水							
木							
金							
土							
日							

おむつ交換
食事配膳
服薬介助

緊急コール
転倒された為
随時対応

おむつ交換
食事配膳
服薬介助

おむつ交換
食事配膳
服薬介助
就寝介助

定期巡回

随時対応

*Cさん 男性 63歳 要介護3 自宅(借家)で妻と二人暮らし

*妻が脳出血で要介護状態、本人も癌があり夫婦で入院する

*食事は全粥きざみで非常に食が細いが自力可能

*入浴、着替えその他は全介助

*会話は困難、筆談にてコミュニケーションできる

*妻も片麻痺があり援助必要

*9月に、夫婦の強い希望で退院し、自宅へ戻られる。

食事以外は全て介護が必要な為、ほまれを利用

*他事業所（訪問看護週2回と、訪問入浴週1回）も利用して
担当ケアマネを含めて連携を図り、在宅生活を続ける

<援助内容>

*定期巡回にて朝・昼・夜におむつ交換、清拭、更衣、身体整容、食事配膳、服薬介助、掃除や洗濯など行っている

*緊急コールがあったが、声は聞き取れず訪問して確認、すると妻が転倒して、自分では助けられないのでコールを押したとのこと。介助してベッドへ戻すことができた。

8月12日の勉強会

桑名市北部地域包括支援センターの主催により、勉強会・見学会を実施しました。

参加者

居宅介護支援事業所介護支援専門員 32名

包括支援センター職員 9名

その他 2名

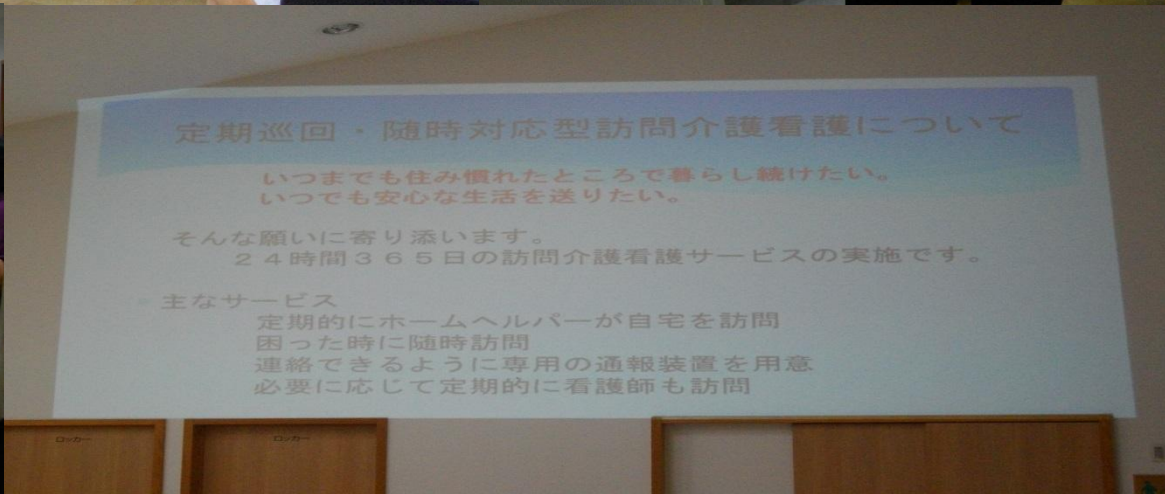
合計 43名





ご利用者例
要介護4（男性） 立位、歩行は介助があれば可能





定期巡回随時対応型訪問介護看護の利用により 効果のあったケース

- ・ 起床の声かけや通所の準備など、定期的な訪問で生活のリズムが整っている。
- ・ 短時間の訪問で声かけを行うことにより、異常がない、ということを確認できる。
- ・ ご利用者の体調の変化に気付くことができる。
体調不良のときの対応が早めに行える。
- ・ 排泄介助が必要な時にケアコールができて、在宅生活が継続できている。また排便の状態を把握することができる。
- ・ 24時間対応のケアコールがあることで、介助者の安心にもつながっている。

気づいたことなど

- ・何かあった時に安心という認識は持ってもらえた。
- ・実際に「ベッドから落ちたので助けて」というコールがあって、随時対応の長所を生かすことができた。
- ・ご利用者のニーズは同じ時間に集中するので、うまく人員配置をしていく必要がある。
- ・ケアコールは対応力、判断力を磨く必要がある。
電話的な会話ではよくわからないこともある。
- ・時間帯によって、道路事情で訪問に時間がかかっている。
- ・夜間は併施設の力を借りる。連携と情報共有の必要性。
- ・待機にかかる精神的な負担の軽減も考える。
- ・利用者数の増加に向けての実績の積み上げと周知。

ありがとうございました



保健・医療・福祉の総合グループ

Apatheia

